18. 抑うつ状態に関与していたと考えられた房室ブロックの1例

自治医大麻酔科
○柏田 暖之 福田 博一 中井川 泰谷川 真道 清水 禮寿

顔面神経麻痺の長期にわたる治療経過中に完全房室ブロックが発見され、ペースメーカー植込み術後に麻痺の改善と抑うつ状態の消失が認められた症例を経験した。64歳の女性患者で、1989年6月左顔面神経麻痺に気づき、7月当科外来を受診した。初診時の麻痺スコアは40点評価法で16点の中等度障害であった。初診時より星状神経節ブロック（SGB）を連日施行し、ステロイド、末梢循環改善薬を併用した。麻痺は徐徐に改善し、6月～7月に至り、減量を試みた。しかし、再発したため、8月に手術を計画した。当科外来1回目を経て、9月に手術を施行した。麻痺は徐々に改善し、術後1年を経過したが、麻痺は完全に回復した。手術の成績は良好で、患者も満足した。この症例は、手術の適応についての考察を含む報告である。

19. 虚血性心疾患に併発し、胸痛を主訴としたうつ病の1例

東邦大心身医学
○山崎 公子 中野 弘一 筒井 未春

症例は67歳女性で、10年前より高血圧、不整脈を指摘され、加療中の1ヶ月前に胆囊炎にて入院し、約6kgの体重減少を認め、以降、前胸部総発炎、手足のしびれを発症の兆しに繋がっていた。入院時に胸部X線、心電図、腹部超音波検査等を行った。入院後、心電図、血圧、心音等の経過観察を行い、改善の兆しを見た。患者の主訴は胸痛であり、心電図上でQ波の出現が確認された。経過観察の結果、心電図上の変化は消失し、患者の症状も改善した。この症例は、虚血性心疾患に併発したうつ病の1例を報告するものである。

20. 心因性失声症10例の予後

横浜労災病院心療内科
○山本 暖晴 安原 昭一 津久 重俊 要川原 健資 青沼 忠子 愛 美知子
村山 サヨ 佐々木篤

前回の本面会において、我々は当院開設後に来院した心因性失声症10例の病態について報告し、7例が皇后報道の1ヵ月前に集中し、大部分がヒステリーの病態であり、深刻さはなく、予後もよいだろうと述べた。ところで、10例中4例を最後にその後3ヵ月では、同症状で来院するものはいなかった。今回、前回報告した10例の予後を調べたところ、失声症状は全例で消失していた。マスコミの皇后報道が心因性疾患に及ぼす影響について、症例を通して報告した。

21. 特異な親子関係が問題となった男子過食症の1例

日本大第1内科（心療内科）LCCストレス医学研究所 橫浜労災病院心療内科
○飯森 洋史 池田 正人 江花 昭一

症例：32歳男性。主訴：過食、嘔吐。現病歴：平成4年12月頃より食後の過食が始まり、次第に過食傾向を抑えられなくなったこの状態より、心療内科に初診した。

22. 被食障害患者の入院治療に関する考察（第16報）

一病前の最大体重と入院時体重の比較

水谷下薬局病院病院心療内科 東京大心療内科
○大林 正博 横山美緒 子 熊野 宏昭

体重増加目的で入院した心因性食欲不振症患者を不食型（R型）41例、大食型（B型）34例の2群に分け比較検討した。検討項目は罹病期間、病前の最大体重、入院時体重、おおよその最大体重と入院時体重の比などである。この結果、入院時の体重（R型31.0±2.9